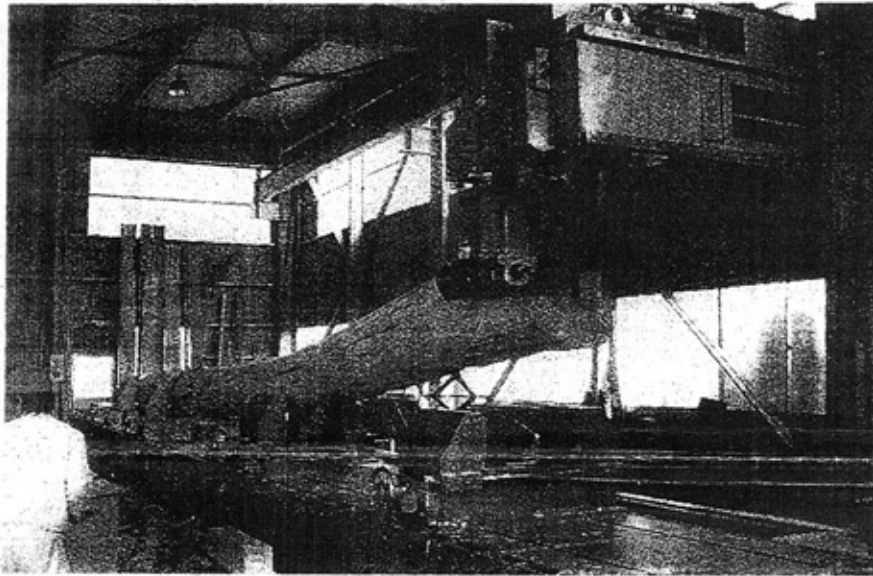


# 国内最大の加工機

## 田島木材 導入へ



大型部材や精密加工に対応する複合加工機の旧モデル。田島木材が導入する新型機はさらに大型化する

# 微細な意匠も対応

田島木材(富山市中島、田島保良社長)は二月に、曲線や丸柱など特殊な形状の木材加工を可能にする建築用複合加工機をプレカット工場(上市町)に導入する。住宅だけでなく、より複雑な加工を要する社寺仏閣建築や大型木造建築向けの部材プレカットにも対応する国内最大の新型機で、県内では初の導入となる。

日高機械(石川県志賀町)が開発した加工機を、田島木材専用で改良した最新モデル。旧モデルはこれまで、全国の著名な社寺仏閣建築などで、工期短縮などに実績を上げ

ている。新型機は部材の受け皿となる「テーブル」と、X・Y・Z軸に旋回と傾斜を加えた「五軸ヘッド」などからなる。部材をテーブルに供給すると、ヘッドが稼働して刃物を自動交換しながら穴開けや切断、切削、溝加工などを行い、あらかじめ入力した形状に自動加工する。従来のプレカット加工機では対応できなかった大型部材(幅一・二メートル、長さ六メートル、厚さ二二センチ)を一度に加工でき、丸柱やわん曲した形状のほか、彫刻、欄間に求められるような微細な意匠にも対応。社寺仏閣建築などで、宮大工の手作業に頼っていた精密加工が大幅に機械化でき、工期短縮と精度向上につながる。大型部材の加工が可能なこと、体育館や公民館の大型木造建築でも威力を発揮する。

でも、より高度な機械加工ができるようになる。木材加工業界では、プレカットの一般化に伴い、競争が激化している。より大型で高度な部材加工に対応する新型機を導入することで差別化するとともに、社寺仏閣建築用の部材加工・販売など、新たな市場開拓にもつなげる。